

ライティング・センター構想と図書館

畠山珠美
国際基督教大学図書館
hatake@icu.ac.jp

教育学習支援検討特別委員会事例報告会
2014年2月12日

- リベラルアーツ教育
「Critical Thinking (批判的思考力)」を身に付ける
- 「ELA (English for Liberal Arts Program)」にみる
ICUの教育

Academic Skills (アカデミック・スキルズ)

講義の聴き方、ノートの取り方、語彙の構築、
ディスカッションとプレゼンテーション・スキルの訓練

Reading & Content Analysis (精読と英文構成法)

学術論文を読み込んで分析する読解力の習得



Research Writing (論文作成)

卒業論文は全員必修



リベラルアーツ教育の最終目標
「書く力」

2005年 リベラル・アーツプログラム自己点検報告書

ライティング・センター(Writing Center)を設置して全学生の日英両語での記述力強化をはかることを提案する。

2009年 自己点検評価報告書

「リベラル・アーツプログラム自己点検報告書」のライティング・センター設置という課題に早急に取り組む必要がある。
... 授業の外で記述力向上に資するサポート体制を構築することが有益である。従来、**図書館**で、レポート・論文作成のための資料収集等の相談に応じてきたが、まずはこれを拡大・発展させる。

2010年4月～ プロジェクト会議

教養学部長、教養学部副部長、ELP主任、JLP主任、
図書館長代行で、ライティング・センターの実現に向けて
検討開始 ⇒ **図書館内にパイロット版の設置を決定**

* 図書館に設置する理由 *

- 学生が最も集まる場所
- レファレンス業務として既にライティング指導の一旦を担っている(文献探索指導など)
- ELPの授業内で図書館員がレクチャーを実施している
⇒ ELP教員との連携が期待できる
- ライティングの参考文献の購入・提供が容易

2010年10月 教授会でアナウンス(教養学部長)

- ライティング・センターのパイロット版として、ライティングサポート・デスクを図書館に設置
- チューターの推薦を依頼

2010年12月 ライティングサポート・デスク(WSD)開設



- 目的： 自立した「書き手」を育成する

- 具体的には

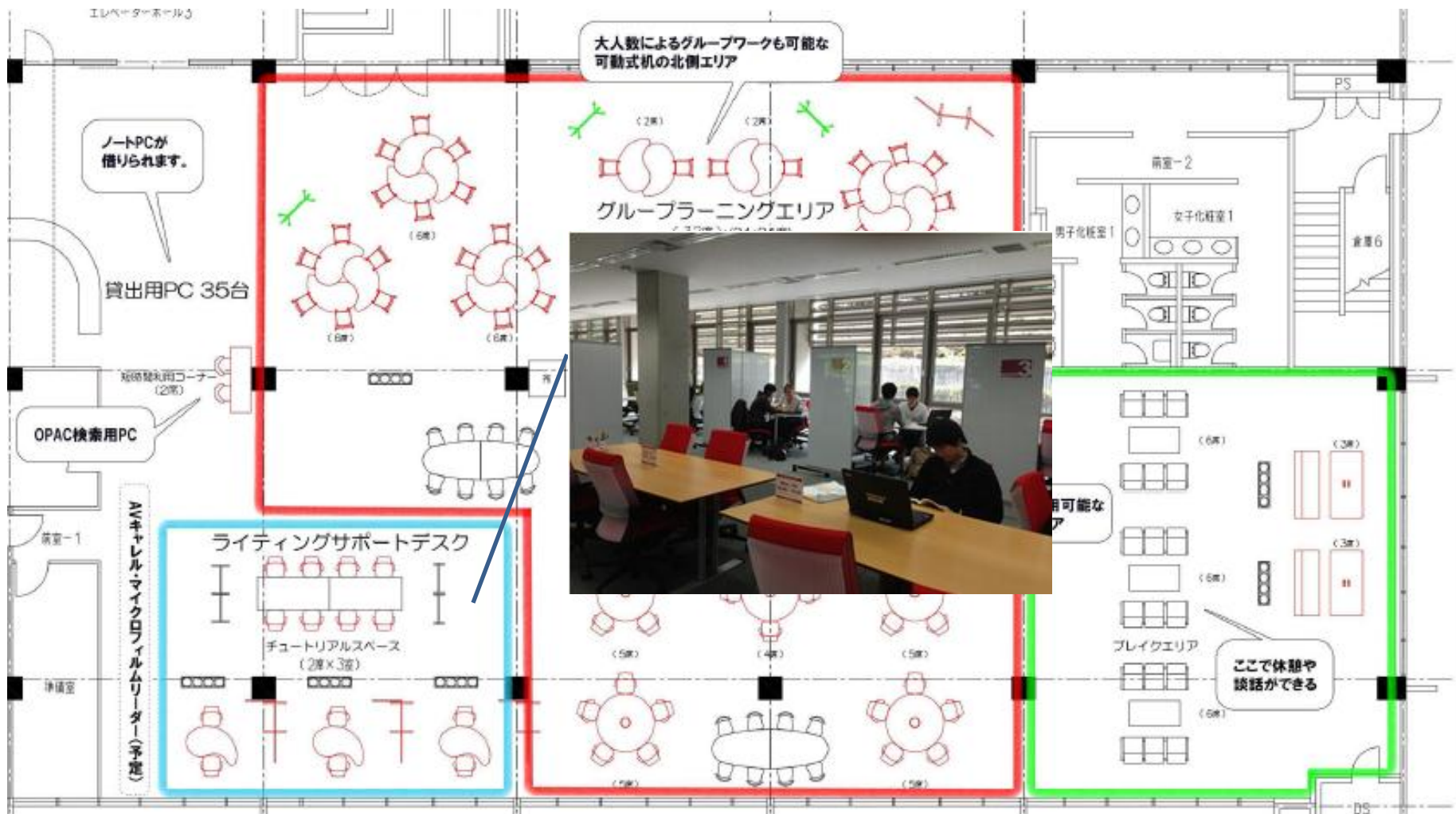
書き手である学生は、自身の文章について語ること・説明することが求められる。

学生はチューターが投げかける質問に答える中で、文章の抱える問題点に気づく。

「第三者に説明する」という行為により、学生自身に「気づき」と「解決」を促していく

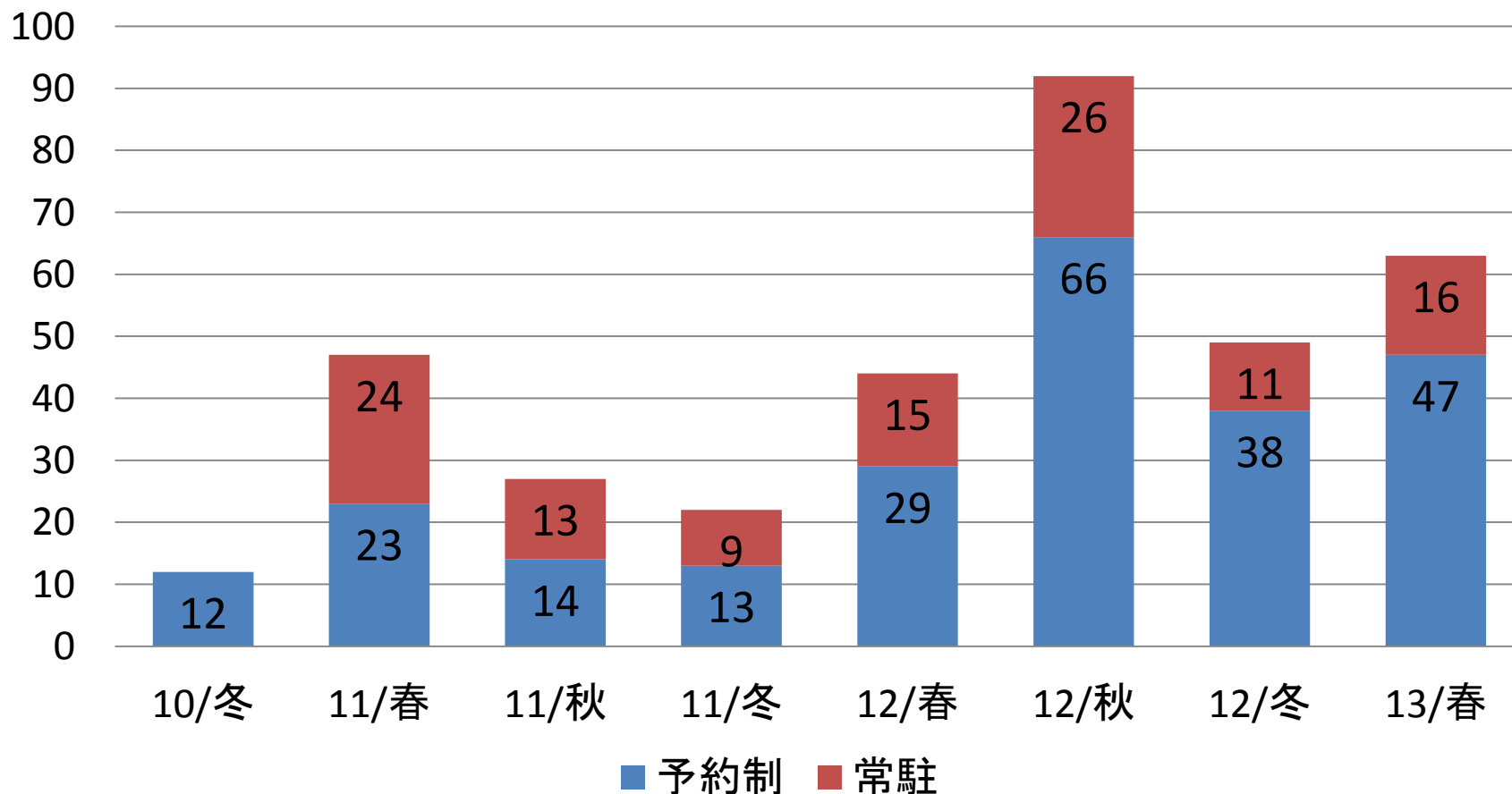
* 添削はしない(成績に関わることはしない)

- 教養学部長室と図書館との共同運営
 - 運営責任者: 教養学部長
 - 主任: 教養学部副部長
 - 実務は図書館(レファレンス・スタッフ)が担当
- 運営方法
 - チューター: 大学院生(学期ごとの登録制)
 - 予約&常駐
 - 予約 : 1回のチュートリアルは40分
 - 常駐 : 平日12時~15時
 - 図書館の業務
 - 予約受付、チューターの日程調整、指導記録・受講後アンケート調査のまとめ、チューター研修の企画



専門領域	課程	日英	2013年度 春学期
哲学・宗教学	博士	日	1
比較文化	修士	日英	1
文学・美術	博士	日英	1
教育・言語学	修士	日英	2
メディア・コミュニケーション	博士	英	1
社会学・人類学	博士	日英	1
社会学・人類学	修士	日英	2
政治学・国際関係学	博士	日英	2
政治学・国際関係学	修士	日英	1
心理学	博士	日	1
計			13

WSDセッション数（2010冬学期～2013春学期）



グローバル人材育成推進事業との連携

- 事業目標の一つとして「英語による情報発信能力(ライティング)の涵養」を掲げている
- 具体的な取り組み
 - 論文作成指導を行う専属チューターをつける科目を「Wコース」として設置
 - チューターのトレーナーを雇用
 - Wコースのチューター&セッションをWSDが管理